港湾におけるクルーズ船受入環境の整備

【現状・背景】

〇新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和２～３年の北海道内におけるクルーズ船寄港回数はゼロであったが、令和4年3月には約2年4か月ぶりに日本船社クルーズ船が、また、令和5年3月には外国船社クルーズ船が寄港を再開し、令和6年の寄港回数はコロナ禍以前の実績まで回復する見込みとなっている。

〇回復するクルーズ需要等に対応するため、既存岸壁を活用したクルーズ船受入環境の整備が必要。

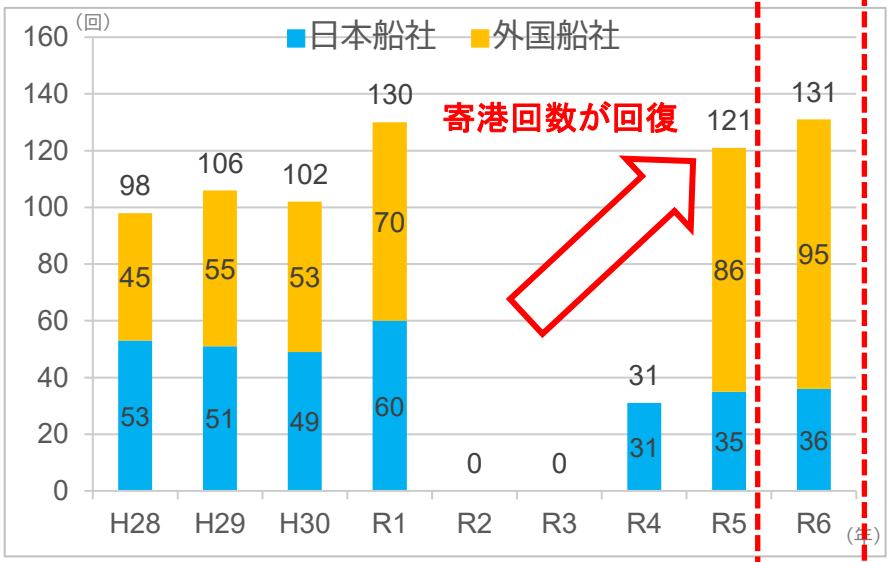
【取組】

〇室蘭港において、引き続き、既存岸壁を活用した大型クルーズ船の受入れに必要な環境整備を推進。

〇各港湾管理者等は、緑地等クルーズ旅客受入に必要な施設を整備。

〇みなとオアシスの活用も図りながら、関係者と連携してクルーズ旅客等の観光交流を促進。

【北海道内クルーズ船寄港回数の推移】



出典：北海道開発局調べ（R6は見込み数）

【クルーズ船の寄港状況】

函館港に寄港するクルーズ船
（2023年に供用開始した大型クルーズ船対応岸壁）

室蘭港に寄港するクルーズ船
（岸壁を暫定供用中）

【クルーズ旅客受入に必要な施設整備】

駐車場（小樽港の事例）

【クルーズ旅客の観光交流】

釧路みなとオアシス協議会による
クルーズ船見送り